

第1回「チームワーク」が企業価値になる時代
 第2回 組織（つながり）をつくる技術① コミュニケーションでつながる
 第3回 組織（つながり）をつくる技術② 共通の目的でつながる
 第4回 組織（つながり）をつくる技術③ 信頼関係でつながる
 第5回 組織（つながり）をつくる技術④ チーム思考と行動をつなぐ



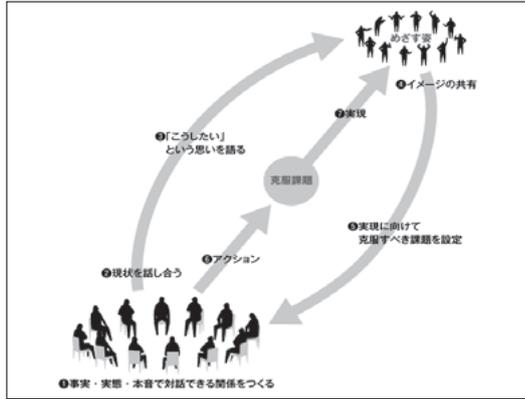
■ 三好博幸

（株）スコラ・コンサルトが長年にわたって蓄積してきた組織風土・体質の革新実績から得られた経験則や知見を研究し、組織本来の機能を作り込み、組織能力を高める技術原理を抽出、整理体系化した「組織テクノロジー」を実践する。さらに実践的組織技術を追及し、情報発信するプラットフォームとしてスコラCs-Labを2021年に設立し、代表、エグゼクティブ・フェローを務める。

■（株）スコラ・コンサルト

【東京オフィス】〒141-0022 東京都品川区東五反田5-25-19 東京デザインセンター 6F
 ●TEL：03-5420-6251 ●URL：https://www.scholar.co.jp/

図表2 創発型チームワークサイクル



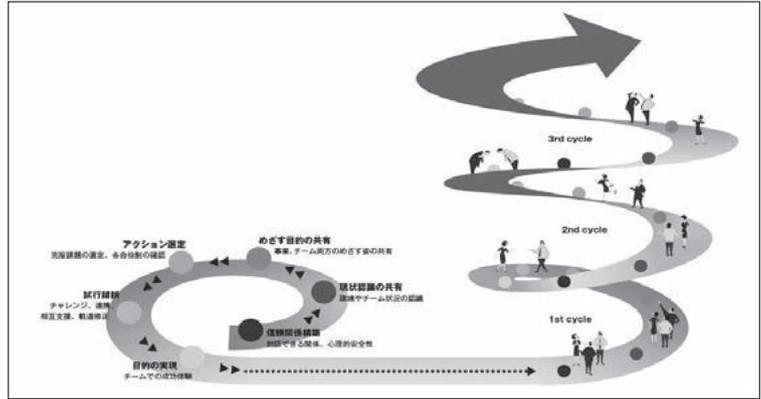
合うことができる関係性」をつくるのが第一条件となります。その条件を整えるためのポイントは、連載第2回でご紹介しています。

チーム思考を重ねながら行動するチームワークサイクル

チーム思考やチームワークが機能するためには、メンバーどうしで率直に話し合える関係性づくりからはじめ、現状認識の共有、めざす目的の共有、目的実現のための克服課題の選定、協力してアクションを起こす、といった役割の相互認識、行動のシンクロナイズと連携、相互支援など、一連の協働のプロセスが必要になります。こうした一連の協働プロセスをチームワークのルーティンにしていくのが「創発型チームワークサイクル（the Emergent Teamwork Cycle：ETサイクル）」です（図表2）。

- ①事実・実態・本音で対話ができる関係をつくる

図表3 チームワークのスパイラルアップ



- ②現状についての認識や問題意識を話し合う
- ③「こうしたい」という思いを話し合う
- ④チームでめざす姿のイメージを共有する
- ⑤めざす姿実現のために克服すべき課題を考える
- ⑥試行錯誤のアクションを重ねながら課題克服に取り組む
- ⑦めざす姿の実現

これは、新しいコトやモノを生み出し、チャレンジによって変化し続けるチームに適した基本的な共同思考と行動のサイクルです。それぞれのステップでチーム思考と協働行動を繰り返すこのETサイクルを連続して経験することによって、チームのルーティンに「創発的な協働行動」が定着し、チームメンバー間の信頼関係やチームワークレベルもスパイラルアップしていきます（図表3）。

新しい形のチームワークを日本企業の強みにしていく

昭和の高度経済成長を生み出した日本企業の強みとして「チームワーク」が挙げられます。しかし、「失われた30年」の間にその強みも失われました。一方、グローバルでは、多様な能力を持ったメンバーの協働によってイノベーションや新価値を生み出すチームワークの探究を真剣に続けています。新たな価値やイノベーションを創出して持続可能な地球環境や社会づくりに貢献できる企業が「価値ある企業」と認められる今という時代では、イノベティブなチームワークが機能していること自体が企業価値になるのです。

これまで、チームワークを企業価値にするための組織技術のエッセンスをご紹介してきました。今後、この組織技術の導入と開発が進み、日本経済や日本企業の発展に役立つことを願っています。